

授業研究のポイント

1 基本的な考え方(教育研究の支柱となるもの)

学習指導, 評価の充実に向けた校内研究は多岐にわたりますが, その支柱をなすものは授業研究です。

その中心となる研究授業は, 視点を明確にし, 提案性のあることが条件となります。

また, 授業者だけでなく全員が積極的にかかわり研究を推進し成果を共有することに本質的な意義があります。

2 こんな授業研究を

A 子どもが伸びる

「はじめに子どもありき」…子どもの姿で勝負です。

B 教師が伸びる

教師が自分自身の授業や他の教師の授業を対象に研究することにより, 自らの授業実践力を高めていきます。教師一人一人が授業設計・実施・評価についての力量を確実に身に付けていくことが大切です。

C 研究の質が高まる

授業研究を通して, 研究主題そのものや, 研究の視点, 内容や方法, 検証計画などについて, 評価し改善を目指すことも大切です。

3 共有を目指して(授業研究をみんなの財産にするには)

授業設計・計画・準備 <Plan>

A 指導案の作成と検討…何を提案するのか

- 教科のねらいを達成するために工夫された内容であることが大切です。
- 研究主題を踏まえ, 視点と具体的な手だてを示すことが大切です。
- 上記のことについて, チームで検討, 改善することが大切です。

B 研究授業の視点の明確化…どこをどんな視点で見るのか

- 授業(本時)のねらいを明確にしておくことが大切です。
- 研究主題にせまる手だてと場面について明確に示すことが大切です。
- 授業(本時)の「見せ場」を明確にしておくことも大切です。
- 授業者の「思い」を伝えておくことも大切です。



研究授業 〈Do〉

授業実践と観察……参観者全員の活動場面

- 授業を見る視点をしっかりと押さえることが大切です。(研究者の立場で)
*これがしっかりしていないと,授業研究が焦点化されません。
- 設けた視点を踏まえ,一か所にとどまることなく,積極的に情報を収集したり自分なりの分析をしたりすることも大切です。
- 生徒の姿(表情,つぶやき,行動など)をしっかりと見取ることが大切です。
- 教師と生徒のコミュニケーションだけではなく,教材や学習環境など,授業のねらいを達成する上で効果的であったことを見付けることも大切です。(授業者が気付いていないケースも多々あります。)



事後検討会 〈Check〉

- 全員が視点(論点)を明確にすることが大切です。
- 「私だったら」と方法論を言う前に,生徒の姿を自分なりに分析して,それを伝えることが大切です。
- 参加者全員の考えが,反映されるような仕掛けが大切です。
- 授業研究の在り方そのものについても,評価することが大切です。
- 研究を深め合えたことに,互いに感謝したいと思います。



それぞれが改善〈Action〉 ➡ 授業設計 〈Plan〉

- 授業研究の成果を授業改善に生かすことが大切です。
(教科のねらいを達成するための手だて,また,研究会の研究主題,学校の研究主題にせまるための手だて)
- 授業研究を生かした「ささやかな実践」を,オープンにすることが大切です。このことにより研究の連続性が生まれます。とても大切なことです。
- 授業研究の進め方,市の教育研究会の研究推進に対して,意見(代案)を持ち,一人一人の研究成果を大いに反映させることが大切です。